

燃之拡がれ 反戦の炎 たち上がり 大学自治擁護のために、

教官学生の意志統一の下、大学自治擁護

の斗に起とう！

自民党の市大介入弾断反対！

《政策シリーズNO 4》

現在大学自治は文部省の反動的自治破壊と内部からの三派系市大君の挑発によつて危機に瀕している。

「羽田事件」、「佐世保事件」、各大学で頻発している「大学紛争」を契機に官憲の導入が私学なら口立にも及び、昨市大でも自民党による自治介入がなされるようとした。今日、大学自治破壊の特徴は、大学内部での三派系諸君による自治破壊（ハネエリ、民主的規約無視、暴力行急等）を根にした権力の直接的介入にある。

大学自治を真に守り抜く道は何なりとこれにただ一つ教官学生の全学的連帯の道以外にはない。

政府独占による、①大学自治に対する官憲の直接導入、②反初イデオロギーの「禁断」③大学予算の削減、④戦争介入への傾斜は、教官学生の一一致した反独占平和の斗いを不可避的に生み出している。最近の京大の斗いから示しているように教官学生は団結して権力の介入にあたることな大学自治を守る斗いのうえに決定的である。従つて教官、大学を権力の手先と反初とし、そこに斗いの鋭さを向けることは決定的に設まつている。

自民党の市大介入を排した教官学生の団結を更に強め、学問の自由、平和を守る不拔の此石を築き上げよう。

市大に於いても昨年一千名に達する教官学生の手で自民党の介入を排した。今後一更団結を強めてゆかねばならない。しかしながら、三派系はいつに反初イデオロギー、統一会議（主流派）の諸君まで「教授会は反初だ」、「教授会はいつ反初になるか」知れぬとし、専ら大学、教授会が学生という対立を設定している。かかる方針は客観的には大学、統一戦線を破壊し、文部省、自民党の介入に口実を与える。現存ある大学自治を全大学へなつくり出し、そのもとに学生の自主的活動を展開してゆく道こそ真に望みある大学の形成につながるのだ。

学 部 区

統一会議
(民学同派)

△土 部 区